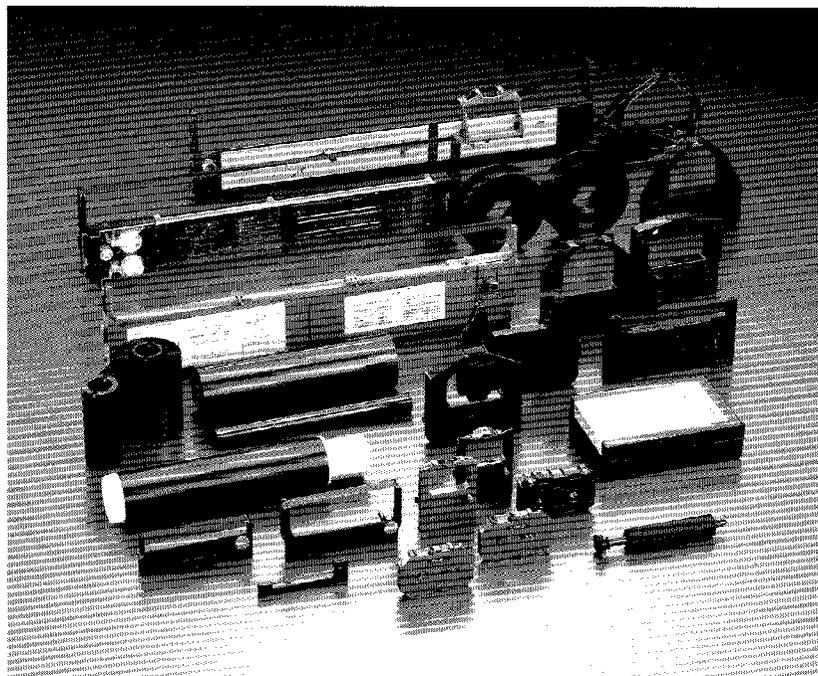


貴社の利益倍増計画に協力する 弊社の商品群

インキ部門 フォーム印刷部門 コンピューターサプライ部門



オノダカーボンインキ株式会社

本社・工場	大阪府高槻市上十室 6-17-1	〒569-1044	電話0726(95)2921(代)
東京支店	東京都千代田区飯田橋 3-11-14	〒102-0072	電話03(3263)2331(代)
福岡営業所	福岡市博多区博多駅南 4-20-8	〒812-0016	電話092(472)5731(代)
仙台営業所	仙台市宮城野区高砂 1-24-15	〒983-0014	電話022(254)6021(代)
関東久喜工場	埼玉県久喜市清久町 2-7	〒346-0035	電話0480(23)6363(代)
宇治田原工場	京都府綴喜郡宇治田原町工業団地	〒610-0231	電話07748(8)4711(代)



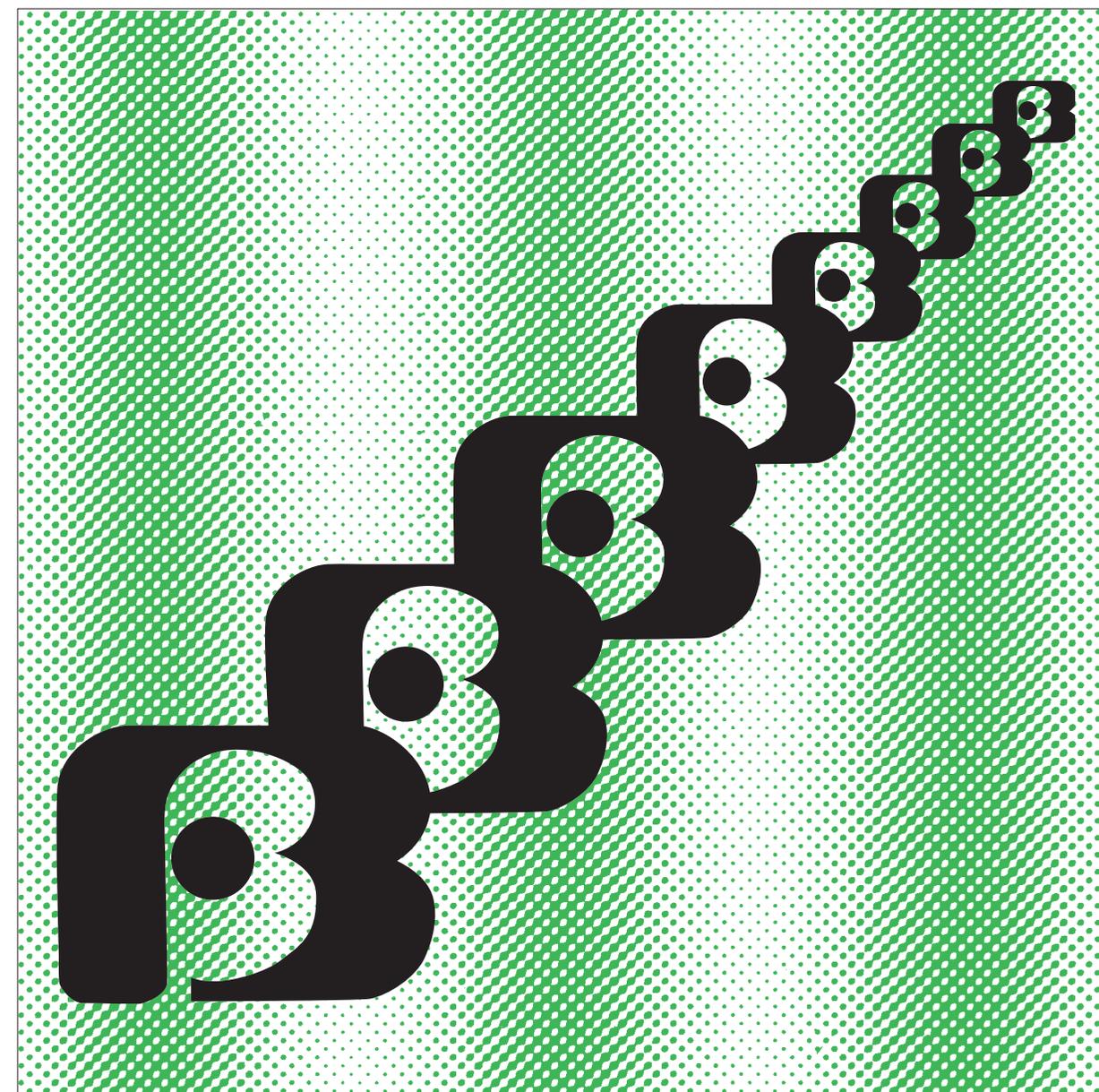
フォーム印刷

B JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **358**



2009.1

年頭所感

「ともに新しい歩みを」

日本フォーム印刷工業連合会 会長

秋山正法

トッパン・フォームズ株式会社 取締役会長



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は日本フォーム印刷工業連合会の事務運営に対し、皆様より多大なご支援とご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2008年はサブプライムローン問題に端を発した欧米の金融市場の危機的状態に加えて、原油の高騰など諸資源の値上がりや、世界各国の株価低迷などにより、世界経済は景気後退という大変厳しい状況で推移しました。

フォーム印刷業界を取り巻く環境も前年に引き続き諸資材が大幅に上昇し、一段と厳しさを増したことで、顧客のご理解をいただくよう努めましたが、製品の価格改善は滞りがちで、苦戦を強いられました。

このようななか我々は、自助努力により徹底的に企業体質の強化に努めるとともに、省資源化・省力化を図り、環境経営にもつなげてゆかねばなりません。

また、紙媒体での情報の器からスタートし、コンピューターの発展とともに、事務革新の一翼を担ってきたフォーム業界は、情報媒体のデジタル化を伴って更なる進化を遂げつつあり、多量印刷の「マス」から個別印刷の「パーソナル」へと、媒体の複合化とともにニーズも変化してきております。

このような変革の中で、これからはなすべきことは単なる価格競争に陥ることなく、ビジネスフォームで培ってきた印刷加工技術、情報処理、あるいは関連事業を最適に融合することで、顧客の新たな満足を得るために、適切で最良のサービスを提供すべく、最善の努力をつくすことだと思えます。

年頭にあたり、会員の皆様ともども、フォーム印刷業界の将来を見極めながら互いに切磋琢磨し、新しい道を一步一步着実に歩んでゆきたいと思えます。

皆様のご支援、ご鞭撻をお願いするとともに、皆様の益々のご活躍とご発展を心より祈念いたしております。

年頭所感

「新たなチャレンジで未来を築く」

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

小林祥浩

小林クリエイティブ株式会社 取締役社長



新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、9月15日のリーマンブラザーズ破綻以降、世界経済は一変しました。それまではサブプライム問題の影響から米欧では景気が減速していたものの、新興国や資源国の底堅い経済成長に支えられていました。それが、この破綻を引き金に未曾有の金融危機が各国経済を下押しし、負の連鎖となって世界同時不況の様相が強まっています。外需頼みの日本経済も例外ではなく、輸出企業を中心に業績は急激に悪化し、大幅な減産、雇用調整が進み、それが消費者心理も冷え込ませ、家計の生活防衛にも益々拍車がかかっています。

今回の危機は、グローバル化する経済活動が好循環を生んでいるうちは良いが、ひとたび変調をきたせば、各国経済を著しく混乱させることを改めて実感させられました。

資源価格の下落は今後の企業収益にはプラスに働くものの、急激なインフレから一転してデフレへの進行が懸念され、2009年は日米欧が揃って戦後初のマイナス成長に陥るといふ観測も浮上していることから、景気停滞の長期化は覚悟せざるを得ません。

フォーム業界においても、その影響は計り知れなく、眼前の難局をいかに乗り越えていくか真価が問われる年となります。そこで重要となるのは、やはりお客様の事業活動に貢献する提案や活動をいかに展開できるかに尽きます。危機的なきこそ、市場はそれを克服するために「変革」に動くものです。そういったお客様の動きを敏感に察知し、積極的に係わり、我々がリードすることで、問題解決や利益に貢献する製品・サービスを提供する絶好の機会となる筈です。そのためには当然、我々も「新たなチャレンジ」が必要となってくるでしょう。こういう活動の積み重ねが、フォーム業界の活力ある未来を築いていくものと確信しております。

エネルギー価格が急激に下落した一方、用紙価格については原料であるチップ・パルプ・古紙価格に下降基調が見え始めたとはいえ依然として高値圏で推移していることなどから、値上げ前の水準に下がることは期待できない状況にあります。製品への価格反映が十分に進まぬうちに、今度は逆にお客様からは値下げ圧力も強まってくるでしょう。用紙価格上昇は業界共通の課題として捉え、お客様に理解を求めていかなければなりません。

また昨年は洞爺湖サミットが開催され、低炭素社会に向けた「環境」への関心が高まった年でした。しかし年初より製紙会社における再生紙偽装問題が発覚し、その対応に追われました。残念な出来事ではありましたが、これも環境について考えるひとつの契機になったと思えます。再生紙だけに頼らない、地球に優しい取り組みを一層進めていくことも必要であります。

先行き不透明感の強まる厳しい環境にあります。こういう時だからこそ、会員各位が連携を深め、力強く進んで参りたいと思っております。本年がフォーム業界の皆さまにとって、苦境を乗り越え、実り多き年となりますことを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

年頭所感

「今年の決意は」

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

小谷 達雄

株式会社イセトー 取締役社長



新年明けましておめでとうございます。

昨年のわが国の経済は、原油価格高騰やサブプライム問題の拡大による米国経済の失速により大きく減速、日本国内市場は混乱し、結果として本格的な景気後退を招きました。また、食の安全性につきましても話題が後を絶たず、消費者はいっそうの危機感を募らせ生活防衛に走ったことも消費マインドが低下した大きな原因のひとつだと感じています。

ただ、昨年、一番注目された話題は何と言っても第44代アメリカ合衆国大統領選挙に勝利したバラク・フセイン・オバマ・ジュニア氏ではないでしょうか。彼には政策だけではなく人を惹きつけるカリスマ的要素があり選挙戦での演説が支持者の心に響き、間もなくアメリカ史上初の黒人大統領に就任いたします。1960年代生まれの若きリーダーが掲げる「ニューディール(景気刺激政策)」の実現により、経済がより活性化することを期待したいと思います。

さて、ビジネスフォーム業界は、これからさらに厳しい局面に立たされることでしょう。われわれはこの厳しい状況を乗り切るために、今までにないスピード感を持ち経営の舵取りを行う必要があります。日々刻々と変わる経済状況に対し、常に正しい経営判断を行い、継続した“変化”を進めていかなければならないでしょう。

その中、今、われわれが最優先に行わなければならないのは、無益なる価格競争やコストを無視したダンピングからの脱却です。今こそフォーム業界全体が強い意思を持って正当なプライシングを実現すべきではないでしょうか。

本年が、フォーム業界の皆さまにとって今までにない飛躍の年となるようご活躍を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

「既存ビジネス領域からの突破口に!!」

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

瀬戸 良教

株式会社昇寿堂 代表取締役社長



明けましておめでとうございます。

と申しあげるのが新年の恒例かと思いますが、私にとってこの暮・正月は身体は休めても心は不安と焦燥感で正月気分どころではなかったというのが本当のところであります。

これまでの「神武以来の好景気」など我々印刷業界にはその実感もないままに、一気にアメリカ発の世界同時不況に直撃されることになってしまいました。ビジネスフォーム業界は特にその影響を強く受けているのではないのでしょうか。

こういう状況の下でフォーム工連として何が必要かを考えてみましたが、このような時こそ「工連に加盟して良かった」と会員の皆様に評価していただけるような情報の発信と会員相互の理解が大切なのではないのでしょうか。

昨年は大変なご苦勞をいただいて情報処理に関する「業務委託契約書雛型」とそのマニュアルが改訂され、貴重な経営財産を手にすることができました。技術セミナー・海外視察報告会も盛況に行われ、これからの経営への指針を得られたと思います。

会員の増加が課題となっているフォーム工連にとっても会員でしか得ることのできない情報の提供と相互交流は、これからはしばらくは続くであろう厳しい経営環境にあって会員相互の技術を尊重し、無益な価格競争に陥ることなく顧客への適正なサービスと適正な利益を得られるようになって行くために欠かせないものと考えます。

フォーム工連各社は情報処理産業へと急速に経営資源を転換し続けていますが、その原点として印刷会社であることを忘れることなく技術開発も継続して行かねばと模索している新春の今日この頃でもございます。

本年も皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

日本フォーム印刷工業連合会 秋山正法会長に聞く

(聞き手=日本印刷新聞社 記者 光山忠良氏)

「情報の器」から、「情報そのもの」をハンドリングする業界へ——ビジネスフォーム業界では、通知書のデータ処理から発送までをワンストップで請け負うデータプリントサービスなどに組み込み、業態変革を進めてきた。フォーム印刷工業連合会の秋山正法会長に、ビジネスフォーム業界の現状と展望を聞いた。

——ビジネスフォーム業界の動向からお伺いします。

秋山 伝票を中心としたビジネスフォームは、IT化の進展など構造的な要因により年々売上げを落としています。その中でわれわれは従来のビジネスフォームという「情報の器」から、情報そのものをハンドリングする業態に変化してきています。

いわゆるDPS(データプリントサービス)もその流れの中から生まれてきました。請求書や明細書などに関して、お客様からお預かりしたデータをもとにデータ処理から印刷、封入・封緘、発送までを一貫して行うサービスのことで、業界全体でもここ数年二ケタ台の成長を遂げています。

——データをハンドリングする業界として、データ処理能力やセキュリティ体制が問われます。

秋山 もちろんこういった事業を展開していく上での前提条件であり、われわれも失敗と研鑽を繰り返しながらセキュリティ管理体制を整えてきました。そういった長年培ったノウハウなり、お客様との信頼関係を業界全体の強みとしていきたいと思えます。

——ビジネスメールにこだわらず、データ処理とセキュリティ体制の強みを生かした業容拡大も考えられますね。

秋山 すでに明細書などのビジネスメールだけでなく、パーソナルな情報を入れた販促用のダイレクトメールも手がけており、それらもDPSの領域に含まれると考えています。

フォーム業界ではさらに新しい展開として、ビジネスメールと販促DMを合体させた「トランスプロモ」の領域に関心が集っています。明細書な



どの情報と広告を組み合わせて印刷するもので、カラー化の進展に伴って、今後期待できる領域です。

——昨年のドルッパが「インクジェットドルッパ」と呼ばれたように、デジタル印刷機の技術向上がめざましいですが、フォーム業界ではデジタル印刷機をどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。

秋山 フルカラーで個人個人の情報が印字できる機能というのはすでにわれわれがDPSの領域で行ってきたことであり、デジタル印刷機の登場によって、小回りよく多くの様々な仕事ができるようになってきます。われわれが大がかりなシステムによって行ってきたことがデジタル印刷機で可能になったという意味では脅威でもあり、これらの領域で今後もリーダーシップを発揮していくためには、企画力やアプリケーションの対応力などのノウハウを生かしていくことが重要です。もちろんデジタル印刷機を活用しながらいかに市場にニーズに応えていくかということも課題になります。

進むBFとラベルの複合化

——フォーム業界がラベルの市場を取り込む動きがあります。

秋山 ラベルの市場に進出しているというより、ビジネスフォームとラベルの機能が重なり合ってきたといった方がいいでしょう。例えば物流においても、かつては各拠点が帳票から伝票を一枚一枚抜き取って管理していたものが、今ではラベル一枚をバーコードで読み取り、ネットワークを介して一元管理する時代になっています。「情報の器」

を取り扱うフォーム業界でも、お客様のニーズに応えるには、ラベル機能も取り込んでいく必要が増しているのです。

——その延長上にICタグがありますね。

秋山 いずれはバーコードに代替するものと期待されますが、課題はコストです。例えば図書館の蔵書管理では大幅な合理化が図れますが、消費財ひとつひとつにタグをつけるとなると無駄になる。想定される用途は多岐にわたりますが、コストに見合う付加価値が得られなければ普及は難しい。いずれにせよICタグはビジネスフォーム業界の商材として期待されており、連合会会員の関心も高い。

——フォーム工連は大企業から従業員30人未満の企業まで様々な会員がいらっしゃいます。そのなかでの工連の果たすべき役割は。

秋山 先ずは情報の共有ですね。先日(11月28日)も北米フォーム業界視察報告会が行われましたが、国内外の動向は企業の規模を問わず関心が高い。

お互いが企業努力すべきことと、意思疎通すべきことは異なります。昨年は用紙値上げに際し、その背景を説明しご理解いただく為の書類や契約書などの雛形を会員に配布しましたが、こういった事業も広い意味では情報の共有といえます。それをどう活かすかは個々の会員の方がご判断することです。

——ビジネスフォーム業界の今後の展望をお聞

かせ下さい。

秋山 ビジネスフォームに関しては、伝票は企業にとっての血液であり、なくなることはないですが、これからも縮小傾向に向かうと想定しています。そのなかでいかに合理化を図り、縮小する市場に適応していくか。そして設備や人員の経営資源を、いかに新しい事業に再配分していくか。業界に共通した課題だと思います。

DPSについては、これから日本でもBPO(ビジネスプロセス・アウトソーシング、社内の業務処理の一部をアウトソーシングし、コアビジネスに経営資源を集中させること)の考え方が浸透し、財務処理や給与計算処理業務などを含めたアウトソーシングが進むと考えられます。企業の合理化という面でもそうですが、個人情報を取り扱うリスク回避からわれわれにアウトソーシングするというニーズも増えてくる。ビジネスチャンスは大いにあります。

いずれにせよ、キーワードはデジタル化です。デジタルを活用した業態変革に取り組まなければならない。今は企業規模の小さな会社でも、デジタル印刷機を導入することで新しいビジネスに挑戦できる時代です。デジタルを活用して、いかにビジネスモデルを構築するかは、個々の企業努力にかかっていると思えます。

日本印刷新聞(2009年1月1日発行)新年号のインタビュー記事を掲載

オフセット印刷用 PS版

LITH-KOTE®

リスコト

(ポジタイプ)

LKP-K, LKP-R, LKP-A, AI

(ネガタイプ)

LKN-A, AI, LKN-N

富士薬品工業株式会社

東京都練馬区豊玉北3-14-10 TEL. 03(3557)6201
大阪府吹田市豊津町22-1 TEL. 06(384)1351

フォーム印刷用インキのトップシェア

FDフォームTF NC

圧倒的な生産性を実現!!

安定した印刷品質 抜群の硬化スピード

高い乳化安定性とワイドな水幅

優れたUV硬化性

※話題の大豆油インキフォームFD TF SOY NCもご用意しました。

製品の詳しい情報はwww.toyoink.co.jp/
「製品・サービス」コーナーをご覧ください。

i&i イメージ&インターフェース 東洋インキ

本社/東京都中央区京橋二丁目3-13 TEL 03(3272)5731
RC事業部/TEL 03(3272)8473

日本フォーム印刷工業連合会 平成20年度 第6回(持ち回り)理事会議事要録

■平成20年10月9日(木) 午後3時～4時30分 ■リーガロイヤルホテル広島「音戸」

■出席者(43名)

秋山会長、小林副会長、小谷副会長、瀬戸(良)副会長、小谷(正)常任理事、室賀常任理事、福田(学)常任理事、丹羽常任理事、玉田常任理事、渡辺北海道会長代理、笹氣東北会長、松尾中部会長、中川関西会長、灘西中国会長、和田九州会長、佐々木常任理事、石坂理事、山下理事、宇都宮理事、丸田理事代理、西川監事、福田顧問、山口(専務理事・事務局)
<オブザーバー>

西中国会員：太田真義、河合豊恒、佐伯伸二(セイコービジネス)、高槻紀夫(広島印刷)、赤坂徳靖(赤坂印刷)、力武義隆、高橋明久(イセト)、山本善之(小林クリエイティブ)、池内秀行、増田英次(トッパン・フォームズ)、塚野玲(新生印刷)、島田初彦(産興) 西中国特別会員：大島基宏(西崎紙販売)、松浦国治郎(富士フィルムグラフィックス)、黒橋正治(昭和情報機器) 関東会員：水谷勝久(ビーエフ)、関東特別会員：辻重紀(富士フィルムグラフィックシステムズ)、中澤祐一(昭和情報機器)、宮腰巖(ミヤコシ)

議 題 (1)委員会報告

- (2)日本印刷産業連合会等関連報告
- (3)各工業会報告

議 事 理事会に先立ち、西中国工業会事務局岡本様から当日及び翌日のスケジュール説明があった後、西中国灘会長が議長となり議事に入った。

<西中国灘会長開会挨拶骨子>

本日は広島ようこそおいで下さいました。

広島の特徴はスポーツとしてサッカーのサンフレッチェ広島、今期は非常に強くJ2から早々とJ1に復帰し、一方広島カープの4位で良いかと思いましたが、しかし、クライマックスシリーズまで行けそうな所におり、会社の業務もそうである様に、もう駄目だという所になっても案外そうでもないぞという所にいます。

もう1つの広島の特徴は狭いエリアに2つの世界遺産があり、悲劇の遺産ではありますが、この会場の近くには原爆ドームがあり、国際平和文化都市として、2つ目は宮島で半日のうちに2ヶ所の世界遺産をめぐる事が出来ます。

西中国工業会は島根、山口、広島の3県をエリアにしておりますが、あらゆる官庁が広島に集中しており、かつて広島が日本の首都であったことはあまり知られていない事実です。



西中国工業会会員として9社 特別会員として5社の14社で活動しておりますが、中心になる地場産業は「マツダ」ですが、岡山と山口には大コンビナート群がありますが、輸出が良くない状況が続いております。業界も惨憺たる状況で、全く先が見えないのは各社同様と思いますので、政府の追加経済政策に期待を掛けたいと考えます。会長としてお願いすることは、業界として苦しい時こそ皆が集まって維持する、これが本当の仲間であると思います。

経済の循環は必ずありますので、来るべき良き将来に向かって進んで行きたいと思っております。今日は良き交わりができますように念じております。

<秋山会長挨拶骨子>

本日は大変ご苦労様で御座います。

今回の持ち回り理事会に対しましては、西中国工業会の灘会長様はじめ関係者の皆様方には色々のご尽力頂きましてありがとうございます。

ノーベル賞の受賞という明るいニュースも御座いますが、金融市場の混乱が益々深まって日本の景気も後退方向に入りつつあり、今後とも我々を取り巻く環境は厳しさを増して来ると思われます。

しかし このような中でも明るさを失わずに前進して行きたいと思っております。会員の皆様方との情報交換が少しでも有意義になるように心から願っている次第です。

委員会報告

● 資材委員会

室賀委員長より、資料に基づき10月度用紙事情について説明があった。

8月は用紙概況として生産高は例年並であるが、国内払出高はマイナスしている。在庫を前年同月と比較すると約1万トン増加している。フォーム用紙の生産は同月比と変わっていないが、代理店からの国内払出が少なく、月末在庫高は前年の20%以上の増加し、在庫率が144%になっている。ノーカーボン紙も日頃の生産活動で感じていることと思っておりますが、国内払出も少なく在庫が増加している。印刷用紙全般では生産高は103%で、国内出荷高については96%と低調で、在庫の前年同月比を調べると10%増加している。

● 国際委員会

玉田国際委員長より、資料に基づき9月度PSDAレポートについて概要説明があった。

2008年第1四半期の米国印刷市場は前年同期に比べ0.9%の伸び、一般印刷は0.1%のマイナスでしたが、トナープリントが5.8%、インクジェットプリントが4.5%の伸びを示しています。今後下期の予測は、トナープリントは6.2%、インクジェットプリントは6%の伸びが予想され、米国印刷市場全体では前年度より2.2%の微増になるとの調査結果です。

米国大手印刷会社13社の2007年度の総売上は325億8400万ドルになり、米国印刷市場の総売

上の30%強になります。大手印刷会社の比重は非常に大きくなっている。

8月26日、HP社がEDS社の買収を発表し、HP社は、テクノロジーサービスにおける強力な体制を持つことになり、IT業界で最大規模の幅広い製品、サービス、ソリューションのポートフォリオが提供出来るようになる。2社のサービスビジネスを合わせると、2008年度の売上げ合計は380億ドルに達し、21万人の社員を擁し、80ヶ国以上でサービス事業を行なう企業となる。

● 業務委員会

小谷(正)委員長より、9月末で締切った会員増強キャンペーンについて報告があった。

期間中登録された会員は、関東工業会で、正会員1社、特別会員7社、西中工業会で、特別会員1社の新規入会に留まり、残念ながら正会員1社、特別会員1社の退会がありました。

2007年版会員名簿作成時と比較すると、正会員は2社減少し、正会員数は157社になっている。また、平成20年9月度月次計算が報告され了承された。

● 市場調査委員会

事務局山口より、平成20年6月から約1ヶ月間、会員67社から回答を頂きましたアンケート結果の分析と考察をした「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」の発刊(10月発行)を報告した。追加冊数については会員1,000円、一般にも1冊2,000円で販売する。ホームページにも書籍購入案内を掲載中。

● 公正取引推進委員会

・「下請事業者支援特別対策」

福田(学)委員長より、経産省から依頼を受け実施した「下請取引における納品価格の値下げ要請等にかかわる緊急アンケート調査」への協力の感謝があった。また、10月1日に公正取引委員会が記者発表した「下請取引適正化推進月間」の案内と、下請事業者支援特別対策についての資料を配布。

● 技術委員会

丹羽委員長より、11月28日に環境委員会協賛、国際委員会と合同で行なうセミナーについての概要と参加案内を行なった。今回のテーマは環

境を取上げ、タイトル「フォーム業界が取り組むべき環境経営」サブタイトル「経営課題と技術的アプローチ」を掲げ、省エネに対して、政策動向が大きく変わろうとしており、2009年4月省エネ法が改正施行され、現場任せから経営責任へ！工場単位から企業事業所全体へ！環境経営がより重要になることを問い掛けていく。具体的な技術的施策として、①損紙低減によるCO2削減施策、②インキ乾燥による電力量(CO2)削減施策を各メーカーから技術報告をする。

●環境委員会

福田(学)委員長より、第2回地球温暖化等のアンケート調査の回収状況について説明があった。日印産連からの依頼を受け本年7月に実施した第1回目のアンケート調査についてのフォーム工連会員からの回答は22社に留まっており、回答率は13.8%にすぎない。そこで、アンケート記入を簡素化し、第2回目のアンケート調査に入ったが、現時点でフォーム工連会員からの回答は非常に低調な状況なので、回答期間を延期するのでご協力頂きたいとの強い要請があった。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき下記の報告があった。

- ・平成21年度税制改正要望について
- ・原材料価格沸騰対策等緊急補償制度について

10月8日の日印産連総務委員会で原材料価格沸騰対策等緊急補償制度の業種指定申請を行なった。現在対象業種として170業種が指定されておりますが、原油・原材料価格等の上昇分が製品価格に転嫁できない中小企業者に対しての保証制度となる。

各工業会報告

〈西中国工業会報告〉

宇都宮副会長より、西中国地区における原材料の値上とマーケット状況の報告があった。

受注量が減少しマーケット環境が悪い中で、用紙価格が15%以上上昇するダブルパンチの状

況で、製品価格を非常に上げ難い状態です。一般印刷では3～7%製品価格を上げているが、ストックフォーム等の用紙価格比率が高い製品ではこの2倍程度の値上幅がないとやっていけない。

10月1日からはダンボール、フィルム、PS版等の諸資材を15～17%上げるとの通知があり、値下げ競争で8銭/通まで単価を下げているオフ輪印刷も、製造原価に影響の高いインキの値上の話もあり厳しい状況です。

ユーザーは価格を下げるために、重量の軽い薄紙の印刷に切替えてきているために、難しい印刷を強いられ、生産性も低下している。オイル価格が下がる状況になった時点では、是非用紙価格の値下げを業界として要求して欲しいと思う。

各工業会報告

その他各地区活動状況、用紙状況、マーケット状況、会員入退会状況等報告があった。

〈小林副会長より謝意と閉会挨拶骨子〉

各工業会からの報告ありがとうございました。用紙原材料は確実に上がったが、製品への価格転嫁が進んでいない。各社営業マンがお客さまに価格転嫁の話しを中々持つていくことが出来ないように思う。しかし、この事は苦しくても丁寧にお客さまにお話し、ご理解を得てどうしてもしてはならない。今回の準備をして頂きました灘会長はじめ西中国の会員方々に感謝します。これからの懇親の場でコミュニケーションを取合って、元気な業界にして行きましょう。

*次回第7回理事会開催予定

開催日 平成20年11月13日(木曜日)
 時間 午後1時30分
 場所 日本印刷会館201会議室

日本フォーム印刷工業連合会平成20年度 第7回理事会議事要録

■平成20年11月13日(水) 午後1時30分～3時00分 ■日本印刷会館 2階201会議室

■出席者(23名)

秋山会長、小林副会長、小谷(達)副会長、瀬戸(良)副会長、瀬戸(政)常任理事、小谷(正)常任理事、室賀常任理事、福田常任理事、丹羽常任理事、玉田常任理事、渡辺社長、松尾常任理事、中川常任理事、和田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、清水理事、西川監事、吉澤監事、鈴木座長、山口(専務理事・事務局)

議 題 (1)D P S 契約雛形改訂について

- (2)委員会報告
- (3)日本印刷産業連合会等関連報告
- (4)各フォーム印刷工業会報告

議 事 冒頭、秋山会長挨拶の後議事に入った。

〈秋山会長挨拶骨子〉

米国の金融危機とあいまって、原油価格は、景気の先行不安と需要減の予測から1バレル56ドルまで下落してきています。また、チップ市況も北京のオリンピックを境にして景気後退とともに減退してきています。

一方、為替相場も昨日は97.6円/ドルとなっており、円高傾向になっています。専門家の中には、日本の輸出国モデルは破綻し、中長期的に1ドル70～80円で成立する産業構造に転換しなければ未来はない。また、資源高の問題を解決するにも円高にすることだと言っている人がいます。すでに円高還元値下げを行っている小売り企業や旅行会社が相次いでいます。家具インテリアや販売大手のニトリ、総合スーパー大手のジャスコなどが取り組みをしている。

今のところこれまでの厳しい原料高の環境が我々にとって若干優位な状況に変わりつつあるが、全く楽観は許されません。今後の成り行きに注目するとともに、市況に対して迅速に対処する体制を整えておくべきだと思います。

本日はプリント業務に関する契約雛形改訂の説明、また今月28日には環境経営と米国視察についてのセミナー等 様々な情報提供をして参りたいと思っている次第です。苦しい経済状況の中にはありますが、皆さんとともに前進して参りたいと思います。



D P S 契約雛形改訂について

2006年にデータプリント等に関する業務委託契約の雛形を改定し、会員各社に配布したが、ユーザーにおける契約に対する意識の高揚など、データプリントに関する業務を取り巻く環境の変化が著しく、契約雛形の改訂版の策定を行う必要が生じたので改訂版を発行する事になりました。そこで 契約雛形改訂分科会座長の鈴木様から改訂内容のポイントと説明が行なわれた。フォーム工連正会員に対しては事務局への申込により関係資料を11月17日(月)から配布を実施する。

委員会報告

●資材委員会

- ・用紙価格値上りについて

室賀委員長より、資料に基づき10月度用紙需給状況の説明と、環境委員会との合同で計画している古紙リサイクル見学会(平成21年2月に実施予定)についての報告があった。

●国際委員会

- ・P S D A レポート報告
- ・北米視察ツアーについて

玉田委員長より、PSDAレポート10月の概要が報告された。また、北米視察ツアーの報告概

要として、Print Solutions 2008のセミナー受講及び企業訪問についての報告があった。詳細は11月28日開催する合同セミナーで報告する。

●業務委員会

10月度月次計算書についての説明があり、了承された。

●市場調査委員会

・市場調査アンケートについて

「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」を10月7日に発刊したが、この内容をラベル新聞および日本印刷新聞に連続掲載され、大きな反響があったことを報告。

●技術委員会

・技術委員会・環境委員会・国際委員会共同技術セミナーについて

・技術委員会との協賛セミナーについて

丹羽委員長より今回、技術委員会と環境委員会との協賛として、環境に取り組む課題についてのセミナー内容を報告し参加申込案内を行う。また、12月5日印刷会館で開催の「情報漏洩・セキュリティ対策セミナー」についての参加申込案内も行なう。

●環境委員会

「地球温暖化・環境循環型社会形成の自主目標」第2回目のアンケートの回収が、日印産連10団体全体で158社からの回答があり、当フォーム工連の会員各社からの回答は15社に留まっている。今後はこのアンケート結果により、自主行動計画の基準値策定作業に入る。

●その他の事項

下記資料について説明を行ない資料を配布する。
・原材料価格高騰対応等緊急保証制度について（経済産業省中小企業庁資料）

10月31日からスタートした当制度について545業種が指定を受け、官報記載の182～185番として印刷関連業として全5業種が指定され対象となる。

・「NIPPON creative printing show」後援について（全日本印刷工業組合連合会）

12月12日から10日間、経済産業省とジェトロの主催でパリの国立装飾美術館において、感性を追求する日本の優れた商品を紹介する

展示会を開催。全印工連を主体として実施するがフォーム工連も後援団体に登録。国内では来年1月23日から7日間、南青山のスパイラルで展示される。

・「EDI/電子タグ実態調査」(次世代EDI推進協議会)

次世代EDI推進協議会からの依頼でアンケートをメール配信にて実施し、締切りは12月15日(月)まで。

日本印刷産業連合会等関連報告

「2009年新年交歓会」実施について

1月9日(金)午後4時30分からホテルオークラで開催される「2009年新年交歓会」の案内を行なう。

各工業会報告

冒頭 特別会員の(株)ミヤコシの宮腰巖社長様が藍綬褒章を受章されますことを報告し、各地区工業会から地区の現状についての報告がされた。

最後に小谷副会長の閉会挨拶により議事を終了した。

〈小谷副会長閉会挨拶骨子〉

本日冒頭に鈴木座長からD P Sの契約について大変重要なお話を伺った。D P S事業は我々にとっては最重要分野であり、この雛形を是非活用して行きたい。非常に厳しい経済状況ではありますが、ビジネスフォーム産業は日本経済を支える血液であり、神経であると思うので、気概を持って我々が日本産業、経済を支えているのだと言う自負を持ちたい。事業を進めることで各社が発展し、しいては業界全体の発展につなげて行きたい。

次回の理事会は新年の1月29日椿山荘での理事会になるので、大変早いのですが皆さん良い新年をお迎え下さい。

*次回開催日 平成20年度第8回理事会

開催日 平成21年1月29日(木)

時間 午後3時30分より

場所 椿山荘 ネプチューン

当日は役員研修会(S W O T分析による経営戦略)を実施。また、午後5時30分より関東新春懇親会を開催。

トピックス

日本フォーム工連技術委員会 / 環境委員会・国際委員会 合同セミナーを開催

第1部「フォーム業界が取組むべき環境経営」

—環境に対する 経営課題と技術的アプローチ—

第2部「2008年度 北米フォーム印刷事情視察報告」

日本フォーム工連技術委員会(丹羽喜一委員長)、環境委員会(福田学委員長)、国際委員会(玉田健治委員長)は、11月28日、東京汐留トッパンフォームズビルにおいて合同セミナーが実施され、会員・特別会員など約160名が出席した。

技術委員会と環境委員会の協賛の第1部では、「フォーム業界が取組むべき環境経営—環境に対する経営課題と技術的アプローチ—」と題として、ESCO事業の草分け(株)ヴィリア・ラボラトリーズ代表取締役社長・筒見憲三氏から環境についての課題と取り組みについて基調講演を頂き、さらに、環境対応の先進技術機器について、アイマー・プランニング(株)木村寿氏、ビーエスティ日本(株)横尾憲昭氏、(株)東通研 UV事業部 鈴木淳一氏、パナソニック電工(株)制御機器本部制御デバイス事業部 田中隆氏の各氏が紹介された。

冒頭、挨拶に登壇した丹羽喜一技術委員長



挨拶する丹羽委員長

と顧客意識との2つの変化を再認識する必要があること。また、課題達成のために経営幹部としてリーダーシップを発揮することが求められていることを強調された。

基調講演の筒見憲三氏からは「このセミナーの終了時には是非とも皆さまがご自分の会社の中で温暖化対策、CO₂の削減を積極的に進めようと思って頂く事であり、それが私のお伝えしたいことです。

もう既に取り組みされている企業であれば、もっと推進していただく事です。今後の国の



第1部セミナー会場風景



講演する筒見憲三氏

動き、東京都の背景等、規制はこれからますます厳しくなるが、その規制を前向きに捉えて活用し、自社の企業体力を強くしていこうという発想になって頂き、積極的な温暖化対策、CO₂の排出削減対策をやっていただきたい、というのが今日の結論のメッセージです」と講演された。

環境対応の先進技術の機器として、刷色損紙を低減するためのインキングシステムとして、アイマー・プランニング(株)の分割呼出しローラーによるインキング装置。また、ビーエスティ日本からは、立上がり損紙を限りなくゼロにする機器として、BF印刷機に搭載可能なドイツ製の自動見当装置の製品紹介と改善実績が報告された。

更に、生産現場で膨大な電力を消費しているUV装置について、電力消費量の削減が期待できる、(株)東通研が開発している低電圧

型UV装置、さらにDrupa2008で発表し脚光を浴びているLED-UVシステムをパナソニック電工(株)の各社が技術的な説明をした。

休憩を挟んで第2部の国際委員会からは、10月21日～27日に実施した北米フォーム印刷事情視察について、視察副団長の(株)イセト一経営企画室 西田浩志氏、視察メンバーのトッパン・フォームズ(株)DPS企画センター・マネージャー 菊口信幸氏、共同印刷(株)ビジネスメディア事業部課長 湯口英樹氏、光ビジネスフォーム(株)営業第4部 北田智彦氏、(株)ピーエフ 業務部資材課課長 関正志氏、水三島紙工(株)神戸支店支店長 山口忠昭氏の各氏がPSDAカンファレンスセミナーの報告と、デジタルプリントビジネス企業の訪問視察について報告され、複数企業からの通知物を同封して郵送するシステムや、資材の購入システムなど、アメリカならではの合理的な取組み等、興味ある内容が話された。

PSDAカンファレンスセミナーの基調講演では、InfoTrends社managing directorのCharlie Pesko氏から「プリント業界における市場の動き」「成功事例の紹介」「ワークフローの重要性と確立」等が講演された。

米国のマーケット市場は「高速デジタル社会への突入」、「メガトレンドからマイクロレ

ンドへ移行」「様々なメディアから日々5,000件以上の情報を消費者が受取る」等、確実にマスからパーソナルの「個」の時代に突入しており、これに対応できる会社が生き延びる。

また、パーソナル印刷の成功事例として、フォトパブリッシング、バインディングブック、トランスプロモ市場、カスタマイズニュースペーパー、地域密着型出版物等が紹介された。

最後にこれからの時代を生き抜く成功の秘訣は、

- ①「Me & My media」(私と私の身の回りのメディア)
 - ②「Cross Media World」(クロスメディアワールド)
 - ③主力となるパーソナリゼーション。
 - ④ツールではなく、戦略そのものになるインターネット活用
 - ⑤Print On Demand市場を推進する超高速デジタルカラープリンタ
- の5つのキーワードであると語った。

デジタルプリントビジネス企業の訪問視察では、ニューヨーク郊外にあるBroadridge Financial Solutions,Inc.社(以前の社名はADP社、2007年に上場独立)を訪問。

創立は1965年、売上は22億ドル(約2,200億円)、従業員は全社で約4,850名、訪問した工場では約450名の従業員。工場面積は東京ドームの約半分の6,600m²で、証券会社を主な得意先として、株主向け通知のデータ処理からプリント、封入封緘、発送までを行うフルフィルメントサービスを行なっている。巨大なサーバールーム、4C/4Cインキジェットフルカラープリンター、モノクロプリンター30台、見渡す限り設置された約90台以上の封入封緘機等、規模の大きさが圧巻であったと報告。

また、品質管理についてはバーコードを使

用して、1通1枚毎のトレーサビリティ管理が行なわれているとの説明があった。資材調達に関しては、用紙会社と2年間契約で価格と値上げの上限を取決め、製品への価格転嫁は都度行なっているとの報告があり、用紙値上の影響を最小限に留めている。

さらに、顧客に対しては四半期毎に業務報告会を実施し、この報告時に顧客から追加業務や新しいプロジェクトの依頼を受けることが多く、競合相手は存在しない、と案内した責任者のLarry Cabral氏は話した。

一方、ボルチモア郊外のCorporate Press社の視察では、コダック社が提供するWeb-to-Printサイトによる写真入り葉書製造を、Kodak Digimaster 4台、Kodak NEX PESS2100 5台のデジタルプリンタで行ない、枚葉オフセットHederberg Speedmasterも所有している。

当初は一般印刷を中心にした業務内容であったが、現在はデジタル化が進み全体に売上の約半分までになっている。

同社では用紙等の資材調達に関して、約10年前から印刷企業共同購買グループに参加し、安定購入と合理化を図っている、と経営者のMike Marcian社長から説明を受けた。

最後に視察メンバーから「品質管理の業界標準」「多企業発送物の同封名寄せ」「資材調達(用紙・消耗品等)の共同購買」の3つの提案があり、法律や日本の商慣習の障壁はあるが改革に向けて前進して行きたいと表明した。

*フォーム業界が取り組むべき環境経営の基調講演については、ホームページに掲載予定)

- 12月3日発行の日本印刷新聞に掲載
- 12月11日発行の印刷新報に掲載
- 12月15日発行のラベル新聞に掲載



第2部セミナーのパネラーの方々

関東フォーム印刷工業会 支部合同講演会・懇親会を開催

関東フォーム印刷工業会5支部(東支部長 渡辺浩次、西支部長・剣 路幸、南支部長・山口和正、北支部長・福田健蔵、北陸支部長・佐々木慎一)は10月23日、新宿ワシントンホテルにおいて「2008年支部合同講演会・懇親会」を開催、新会員を含めて約70名が参加された。

講演会では、ゴルファーの永遠のテーマである飛距離について、世界一流のスウィングを参考にアマチュアにも真似ができる飛ばしの技術「世界流に見る飛距離20Yアップの秘訣」について、井上透氏が講演された。

井上氏はアメリカのネーションワイドツアー(メジャーの下部組織)でプレーしていた時、同じツアーで戦っていた丸山茂樹プロにスウィングを見てくれと声掛けられて、アドバイスしたのがプロコーチとしてのスタートであった。

当時日本では実績のあるプロゴルファーがプロコーチとなって指導する風土でしかなかったが、井上氏は帰国後、試行錯誤しながら苦勞と努力の末、日本で初めてゴルフのプロコーチの地位を築き上げた過程を、笑いを交えながら話された。

プロコーチになってからは米山剛プロ・中嶋常幸プロの復活劇、賞金王も狙える位置にいながらアメリカゴルフツアーでスランプになった佐藤信人プロ、一時不調になった加瀬秀樹プロ、11月に行われた女子ツアーで見事優勝した飯島茜プロへ



井上 透氏

のコーチ等について話され、ゴルフファンなら興味ある内容であった。

井上氏が講演の中で、ビデオを使用し何回も一貫して話されたのは、スイングプレーン(アドレスした時に、ゴルフクラブと地面との角度)を外れない様な、オンプレーンのスウィングを目指すのがベターであると説明をされた。

参加した会員からは「今日の井上氏の講演を聞いて目から鱗だ!」との感想の声があり、盛況で有意義な関東各支部の合同講演会となった。



会場風景

関東フォーム印刷工業会 役員研修会

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)は12月12日、定期理事会に併せて日本ユニシス「伊豆エグゼクティブ・センター」(静岡県伊東市)に於いて役員研修会を実施した。

研修内容は中小規模の企業でも取組みが今求められている、自然災害・大火災・感染症発生等の緊急時に、中核事業の継続と早期復旧の備えとす

る「事業継続計画」BCP(Business Continuity Plan)について、眞崎リスクマネジメント研究所 眞崎達二郎氏が講演された。

眞崎氏は金融関係での豊富な知識と経歴を基に、平成17年度は中小企業庁の「中小企業BCP策定・運用指針」作成プロジェクトに有識者会議メンバーとして加わり、平成18年度からは中小企業庁か



眞崎達二郎氏

ら受託した三菱総合研究所と一緒に、中小企業BCP普及事業とガイドライン改訂作業に従事されている。

今回の役員研修会で眞崎氏は、「BCPに対して担当者任せではいけないし、コンサルタント任せでもいけない。経営者が一番理解して、自分で考えて判らない時に参考書やガイドラインを読んだりコンサルタントを利用して、先ず自分で考え作る努力をすることが大切である」と力説された。

また BCPの具体的対応について基本とは逆かも知れないが、先ず各社の中核事業の商売が旨く継続することを考えて構築する方が対策を考えやすいと思っている。

さらに、一般のBCPのセミナーでは殆ど触れられないが、BCPの基本的構築がなされた後、事業継続における財務対応も考えるべきと思い、今回



伊豆センター

の研修会資料も(BCPその1 基本計画)(BCPその2 財務対応)との2種類用意した」と話された。

フォーム印刷工業会へのアドバイスとして「各社が単独では事業継続が出来ない時の対応として、業界として助け合う緊急事態対応(共助)を今から考えておくことが必要ではないか。特に中小企業においても関東と関西地区との対応交流が出来れば素晴らしいと思う」と提言。

役員研修会の後、懇親会にも参加され、聴講された各役員から多くの質問がなされ、大変有意義で実りある研修となった。

今後「事業継続計画(BCP)」については、日本フォーム印刷工業連合会全体として推進する必要があるため、同様の研修会の開催を計画する予定。

〈参考推薦書〉

- ・小林誠他「事業継続マネジメント(BCM)構築の実際」日本規格協会 2,800円
 - ・リスクマネジメントシステム調査研究会編(三菱総合研究所メンバー)「リスクマネジメントシステム構築ガイド」日本規格協会 1,995円
- ホームページ
- ・中小企業BCP策定運用指針 中小企業庁 <http://www.chusho.meti.go.jp/bcp/>



研修会会場風景

中部フォーム印刷工業会 主催セミナー 「デジタル印刷の技術とフォーム印刷業界における将来展望」

中部フォーム印刷工業会(松尾富正会長)では、11月17日メルパルクNAGOYAにおいてセミナーを開講し、中部工業会の会員各社及び愛知県印刷工業組合の加盟団体からの参加も含め76名が参加

された。

当日は、セミナーに先立ち、松尾会長から開催の挨拶があり、次いでフォーム工連山口専務理事より以下の挨拶があった。「本日は、皆様に役立ててい

ただけのような研修会、セミナーになれば幸いである。特に、今回は特別会員や工業組合加盟団体の方々にも参加していただいている。これからもフォーム工業会、印刷業界を発展させていけるような取組の有るセミナーを企画していきたい。

次いで、セミナーに移り、(株)バリューマシーンインターナショナルの宮本泰夫副社長が講師を務め、「デジタル印刷の技術とフォーム印刷業界における将来展望」をテーマに講演が行われた。

宮本氏はデジタル印刷機の業種別装備率、導入の当初目的、導入後の感想、生産している印刷品目、使用比率を上げるための方策、導入する経営的な目的、活用への障害、宛名以外の可変データ出力など、図表により解説がなされた。

続いてdrupa2008の「インクジェット」、「ワークフロー」、「環境」の三つのキーワードについて説明し、デジタル印刷に成功している企業経営者は、①「特化」したサービス戦略を有している、②経営者のマインドも生産フローも「選択と集中」という背景がある。失敗した経営者には、①導入すれば良いという設備ありきの戦略、②ビジネススタイ

ルを変えられないという特徴が見られると指摘。デジタル印刷機を傍観している経営者の姿勢には、前向きと後ろ向きの傍観があると説いた。

最後にフォーム印刷業界への提言として、データプリントサービス(テキスト印字、スポットカラー印刷)、フルカラーバリエーション・トランザクショナルカラー(テキスト+画像、フルカラー印刷、バリエーション処理)を挙げた。いずれにしても明確な利用目的が優先され、そのマーケティングの構築なくしての設備導入は無意味だと強調した。

デジタル印刷機の導入、活用にあたっての指摘に対して、聴講者に大きな関心を集めた。



関西フォーム印刷工業会 大阪支部10月例会において“第15回プチ勉強会”を開催

関西フォーム印刷工業会大阪支部(支部長 溝口剛司)は10月30日、10月度月例会に併せて、第15回プチ勉強会を大阪支部会員の17社が参加して実施した。

今回は講師として浮田工業(株)代表取締役社長 下川義記氏より、同社が企画した「モノクロUVインクジェットプリンターとセットバラ自動糊付装

置」の組合せ製品についての説明を受けた。

モノクロUVインクジェットプリンターはCTC Japan(中川洋社長)のSJ-500ストリームジェット(600dpi:50m/分・300dpi:100m/分)、製本加工機として、浮田工業(株)製セットバラ自動糊付装置(KU-297)が提案された。



下川義記氏



日本フォーム印刷工業連合会 業務委員会

■平成21年度版「全国会員名簿」の発行

会員各位のご協力により、「平成21年版全国会員名簿」が完成いたしました。

この「平成21年度版会員名簿」は会員各社に1冊を無料配布致します。追加冊数をご希望される場合は 会員価格2,000円/冊、会員外一般

5,000円/冊(共に送料別)で送付致します。
(全国会員名簿改訂作業にあたっては前専務理事の中良夫氏のご協力を頂きました)
*追加冊数の申込はフォーム工連ホームページよりお申込み下さい。

技術委員会

■協賛セミナー「情報漏洩・セキュリティ対策」を開催

日本フォーム印刷工業連合会「技術委員会」(委員長・丹羽喜一・日本ユニシス・サプライ(株)取締役社長)では12月9日、日本印刷会館会議室において、(株)アルバ・(株)ルシーダとの協賛で「情報漏洩・セキュリティ対策セミナー」を開催し、各社の経営幹部、総務管理部門及びコンプライアンス部門の技術担当者など、約40名が参加され実施した。

冒頭挨拶に立った技術委員会土井副委員長は、「ビジネスフォーム業界の様々な課題について技術委員会で取上げているが、必ず課題になり避けて通ることができないのがセキュリティである。重要な情報をどの様に取扱いデータを管理し、顧客に対して信頼性をどの様に示していくか、非常に重要な問題です。大規模な会社のセキュリティ対策は費用も人材も豊富にあるので取組まれているが、比較的小規模な企業のセキュリティ管理、大規模企業の中にあっても分散されたデータのセキュリティ管理については、なかなか手が付けられないのが現状です。そこで、今日は比較的小規模なセキュリティ管理システムの紹介と、米国に於ける情報セキュリティについてご講演を頂くので、セキュリティ管理を進める上で、ぜひ参考にしていただきたい」と挨拶された。

日本ルシーダ会長の豊島康文氏よりアメリカにおける情報漏洩についての説明があった。「アメリカの情報漏洩の事例として、AOLの9,300万人、UCパークレイでの140万人分の個

人情報漏洩と大きな問題となっている。特にアメリカの個人情報においては、ソーシャルセキュリティ番号(8桁番号)の漏洩が非常に問題になる。

Computer Security Institute/FBIでは毎年セキュリティ調査レポートを発行しているが、調査企業の約半数はセキュリティに関する事故を12ヶ月以内に発生していると報告。2007年の事故件数については10件以上増加した企業が大きく増加している。この要因はセキュリティ整備を進めた結果、今まで見過ごしていた事故が顕在化したためと分析している。さらにセキュリティ事故の約60%以上が内部(犯罪)からの漏洩で占めている。

アンチウイルスソフトウェア、ファイアウォールなど、外部からの侵入や攻撃に対するセキュリティ対応は90%以上と大変進んでいる。しかし、増加し続けている内部からの情報漏洩について、大企業は色々な対策をしているが、中小企業は大変悩んでいる。



この様な状況下にあるアメリカで開発し、日本で育ったセキュリティ商品を紹介致したい」と報告され、「Lucida SecurOffice」についての機能説明、導入事例、さらに情報漏洩の抑止

効果とともに、業務以外のWebサイトの閲覧が減少し、仕事の効率が上がる事例をも紹介した。

国際委員会

■ 北米印刷事情レポート

InfoTrends社Charlie Pesko氏が見る2009年のデジタル印刷

PSDA主催の“Print Solutions 2008”での基調講演者のInfoTrends社Charlie Pesko氏はインタビューを受け以下のように語っている。

デジタル印刷産業は過去に想像もできなかった多くの新しい市場に参入できるようになる。既に、より高速で、より高品質で、しかもランニングコストが安いデジタル印刷機がdrupaで紹介されている。中には想像を絶するような装置も新しく紹介されており、次世代デジタル印刷に向っている。デジタル印刷のページコストがダウンし、スピードもアッ

プすることで、オフセット印刷との枚数分岐点も上昇し、カタログ、新聞、雑誌、カラー出版物も対象となってきた。

今はクロスメディアの時代となり新しいビジネスチャンスでもある。この事実はデジタル技術が将来オフセット印刷のビジネスの多くを取っていくことを意味している。デジタル印刷は2～3年前にやっと毎分100ページの大台を達成したばかりであったが、drupaでは毎分2,000ページを印刷できるデジタルカラープリンタも出現した。

北米BF関連製品製造会社のトップ100社

米国BF業界紙は2008年のBF業界の売上を発表した。サブプライムローンから発生し、世界の金融経済に脅かされているBF業界ですが、トップ100社の売上は前年の29億7,000万ドルを約2.7%上回り、30億5,000万ドルとなった。BF関連製品の中で、ラベルとタグ、コマ

ーシャル印刷製品、プロモ製品、フィルム印刷及びデジタル印刷製品部門の売上は上昇を記録している。トップ100社でもBF印刷は前年割れをしているが、しかし、BF印刷の売上は関連製品を含む総売上の27% (8億1,340万ドル)を占め、相変わらず最大の売上製品である。

米国でのトランスプロモの評価

第2回目のトランスプロモ・サミットが8月にニューヨークで開かれたが、最近の市場調査でもトランスプロモの評判は更に伸び、InfoTrends社のPesko氏も予測しているように、トランザクションプリントは全てトランスプロモに取って代わる勢いである。

トランスプロモが米国で人気がある理由は、①受取者は毎月配達されるステートメントや請求書の来るのを待っており、その95%以上が開封され読まれている。②ステートメ

ントや請求書はテレビの広告など他のコミュニケーション方法よりも注意を引き、受取人はその内容確認に平均1～3分間費やしていること。③既存の顧客への配送している同封物としてプロモーション・メッセージを追加することは非常にコスト的にも、レスポンスの面でも有効(50%以上の利益還元効果)であること。以上3点である。トランスプロモ市場は2010年まで年率91%で成長すると予想した資料も出されている。

北米の一般印刷総売上の55%は9つの州に集中

一般印刷産業は地域経済への貢献度が高いと言われているが、一般印刷物の米国内の総売上は全国50州の内の9州に集中している。この統計は年間売上が100万ドルから2億ドルまでの600社が対象で、この600社の総売上の54.6%はカリフォルニア州(86億ドル)で、以下、ペンシルバニア州、イリノイ州、ニュ

ーヨーク州、ウイコンシン州、ミネソタ州、テキサス州、オハイオ州、それにニュージャージー州の9州に集中している。さらに上位4州(カリフォルニア、ペンシルバニア、イリノイ及びニューヨーク)での売上は全体の1/3を占め、非常に限定された地域に集中している。

DMのツールとしての葉書

過去2年間に米国内で紙の値段や郵便料金が急上昇。その影響もありDMのツールとして葉書が見直されている。ディスカウント・クーポン付の大型ポストカードDMは複数のチェーンストアで採用され、製品コストも郵便料金も安価に済む葉書によるDMを計画している。カリフォルニア州の最大手Modern

Postcard社は「DMはサービスや商品自体を紹介するというより、問合せの電話、店舗への訪問、ウェブサイトへの誘導など、消費ステップを作り出すことが目的。さらに開封する必要もなく葉書自体がクーポン券となっており、受取った瞬時に明確なメッセージを伝えることが可能」と話す。

2008年の郵送配達数は約90億個の減少と予測

2008年度の郵便配達数は前年度に比べ約90億個減少する。これは2007年度の前年度減少個数の9億個に比較して極度の減少である。その要因として、①歴史的経済混乱、②今年5月に実施した郵便料金値上げ、③ウォール街

の混乱、④クレジットカード請求書の減少、⑤用紙価格の値上げ、⑥ダイレクトメール反対運動などが上げられる。この減少傾向は2009年度も続く予想されている。

HP Handheld sp400によりUPS社が配送情報をペーパーレスに

HP社(Hewlett-Packard)は「UPS社(United Parcel Service)の小荷物仕分担当者が荷物(パッケージ)に直接配送情報を印字できるハンドヘルド型のスキャナー兼プリンターを開発した」と発表しました。UPS社はこのハンドヘルド型スキャナー兼プリンターを米国内の41箇所の配送センターに設置し、2008年末までに55箇所のセンターに850台設置する計画。2010年までにこのシステムでの処理個数

を300万に増やす予定で、全ての配送ラベルがこの方法に変わった場合、年間1,338トンの紙の節約ができ、配送センターの作業効率も改善される。

さらに、このシステムにはPackage Flow Technology(配送ルート計画システム)も組み込まれており、配送効率を最大限に向上させるUPS社のノウハウが盛り込まれている。

Xerox社が印刷を消去できる紙を開発

Xerox社はプリントした文字や画像が24時間以内に消え、再び使用できる用紙を開発した。開発された用紙には特定光源波長に反応する化学物質が塗布しており、この用紙は特定波長の光源の基で、文字や画像として目に見え認識ができる。

Xerox社は「調査結果からプリントアウトされた全てのドキュメントの約40%は、当日中に捨てられ放棄されているので、プリントされた用紙が24時間で自動的に消えて再使用できる用紙は理想的である」と話している。

日本印刷産業連合会 (JFPI)

■ 印刷産業と環境 ⑥ 『印刷職場の労働衛生管理』

(社)日本印刷産業連合会では、環境委員会のもと労働安全関連研究会が、平成10年に発行した有機溶剤中毒予防規則と溶剤の使用に関する手引書「印刷と有機溶剤—管理のポイントと作業環境の改善—」partⅢを見直し、印刷業に係わる労働衛生の取組みや、法規制について編集した『印刷職場の労働衛生管理』を発行。

本書では、印刷に関連する労働衛生の取組みや法規制について、有機溶剤に加えて特定化学物質や騒音等の作業環境管理項目の具体的な実施内容も取り上げておりますので、日々の業務の中で直面する労働安全衛生の理解と認識を高めるための手引書としてお役立て下さい。

『印刷職場の労働衛生管理』

会員価格 1,500円 (消費税込、郵送料別途)

< A4判/本文116ページ/2008年11月発行 >

◆申込はフォーム工連ホームページよりお申込み下さい。

印刷学会出版部編

■ グラフィックソリューション13 「PODとインクジェット」

近年技術革新が目覚ましく、drupaでも大きく取り上げられて注目を集めているデジタル印刷機やインクジェットプリンタを取上げた。

本誌では、これまで『印刷雑誌』に掲載したPOD、インクジェット関連記事の補筆と書き下ろしを加え、印刷雑誌別冊として一冊に集約した。

グラフィックソリューション13 「PODとインクジェット」

価格 3,150円 (送料別)

< A4判/114ページ/2008年9月16日発行 >

・本誌の主な内容

PODの本質を考える

デジタルプリンタで多彩な仕事展開

デジタル印刷はここまで来ている

電子写真方式技術の変遷

POD市場におけるIJ印刷機の可能性と動向

デジタル印刷に向けたワークフロー

インクジェットヘッドの基本

屋外広告用メディアの基礎知識

専用紙の現状と技術課題 ほか

◆申込は(株)印刷学会出版部ホームページよりお申込み下さい。

■ ホームページ掲載一覧 (10月~12月)

10月15日	技術委員会(環境委員会協賛)・国際委員会: 合同セミナー開催案内 第一部「フォーム業界が取り組むべき環境経営」 第二部「2008年度北米フォーム印刷事情視察報告」
10月15日	業務委員会: 日本フォーム印刷工業連合会第5回理事会報告
10月15日	市場調査委員会: アンケートによる調査研究報告書 2008年度版「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」発行
10月24日	業務委員会: 原材料価格高騰対応等緊急保証制度が開始 — 印刷・同関連5業種全てが対象業種指定 —
11月17日	業務委員会: 日本フォーム印刷工業連合会第6回理事会報告
12月08日	業務委員会: 日本フォーム印刷工業連合会第7回理事会報告
12月25日	書籍紹介: 印刷産業と環境 ⑥ 『印刷職場の労働衛生管理』
12月26日	資材委員会/環境委員会: 「用紙クローズドリサイクル見学会」案内

印刷技術の未来を担うパイオニア

MJP20V

UV対応フルカラーインクジェットプリンター



- ・解像度 600dpi × 600dpi
- ・印字速度 100m/min
- ・最大印字幅 541mm

MD-press 1260

液体トナー方式電子写真プリンター



- ・解像度 1200dpi × 1200dpi
- ・印字速度 60m/min
- ・最大印字幅 487mm



〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 1-13-5
TEL: 047-493-3854 FAX: 047-493-3071
URL: <http://www.miyakoshi.co.jp>

NPiフォーム NEXT-IJ



次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

■ NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m ²)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。

日本製紙株式会社 情報・産業用紙営業本部 情報用紙一部

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-12-1 (新有楽町ビル) Tel. (03) 3218-8047



21世紀の情報記録を
サポートします。

三菱情報記録用紙

- ☐ 三菱 NGR 新 242 ☐ 三菱IJフォーム用紙 ☐ DFカラーM・G
- ☐ ダイヤフォーム ☐ ダイヤメールシリーズ ☐ OCR用紙 ☐ 感熱紙

三菱製紙株式会社 情報用紙事業部 営業部第1グループ 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎03(3213)3732
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

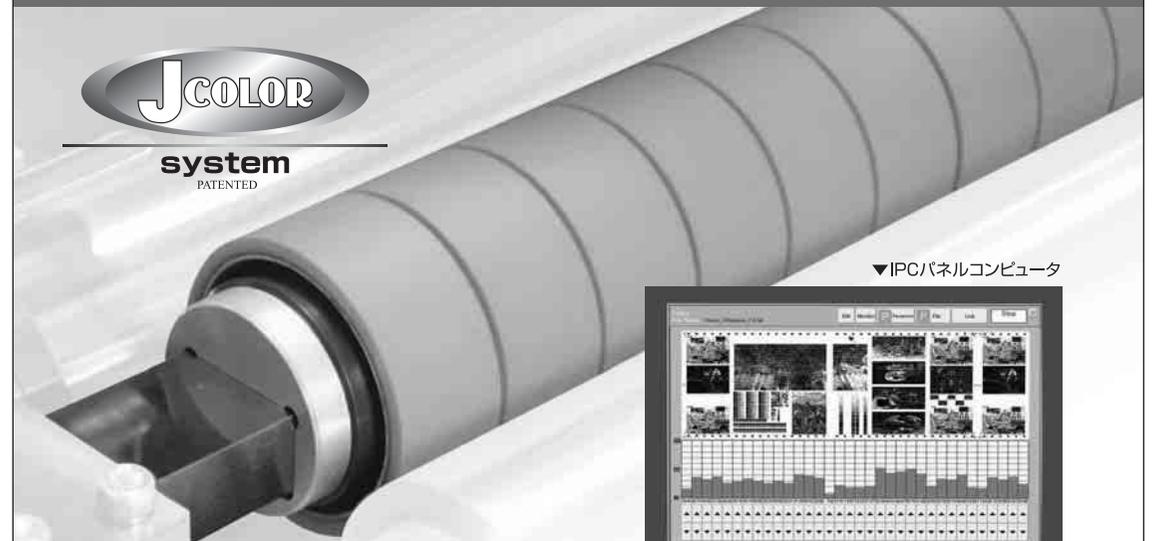
三菱製紙販売株式会社
本 店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341
大阪 支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561
東北支店 〒980-0811 仙台市一番町2-9-22第2ナカノビル ☎022(227)7755
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

コスト削減・高品質

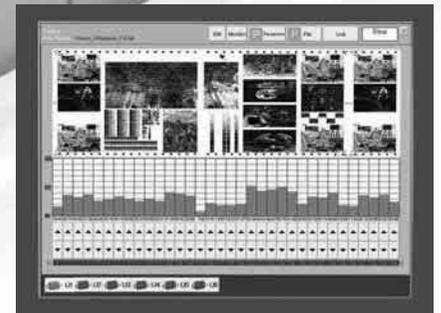
ビジネスフォーム印刷のニーズにベストマッチ

JCOLOR

system
PATENTED



▼IPCパネルコンピュータ

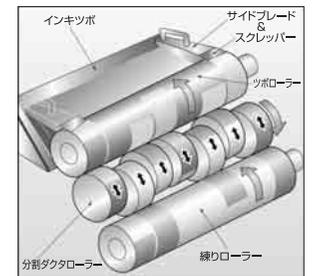


※刷版データとインキ量グラフを同時に表示。オペレーターが操作しやすくなっています。

IPC <インキプリセットコントロール>

★メリット

- ◎分割ダクタローラーは正確なインキ量供給により、色調、立ち上がりが向上。
- ◎低速から高速への速度追従機能により、濃度安定・ヤレ削減を実現。
- ◎極小絵柄でも色品質が安定し、インキ乳化を抑制。



▲分割ダクタローラー機構

AFC <オートファンテンクリーニング>



●インキつぼを覆うカバーフィルムを用いた、インキつぼ・つぼローラー自動洗浄システム。

★メリット

- ◎12色機の場合、インキつぼ&つぼローラーを同時に洗浄、約5分で洗浄完了。

IPC・AFC 国内外特許取得
※類似品にご注意下さい。

ビジネスフォーム印刷用 BST自動見当装置システム

プロセスカラーの見当合わせ時間の短縮に最適！

■採用のメリット！！

- ・各オーダー及びオーダープロフィールのデータ管理！
- ・ロット量にかかわらず始かり時間の大幅短縮！
- ・オペレータの技量を選ばないシステム！
- ・手動操作に対して大幅な損紙の軽減！
- ・印刷スピードの大幅アップ！
- ・大幅な損紙の軽減



BSTビーエスティ日本株式会社

東京営業所 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪411号室 TEL: 03-5798-7805 FAX: 03-5798-7806
本 社 〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-10-9 箕面フレールビル3階 TEL: 072-727-4704 FAX: 072-727-4914
大阪工場 〒594-0062 大阪府和泉市寺田町3-1-27 TEL: 0725-44-9930 FAX: 0725-44-9931

アイマー・プランニング株式会社
〒612-8207 京都市伏見区横大路三栖山城屋敷町108

TEL.075-603-3878 FAX.075-603-3877
URL http://www.imer.jp E-mail: sec@imer.jp

